

とりまとめコメント

事業名 総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業

医師の地域偏在と診療科偏在の解消という社会のニーズに合わせて、地域において幅広い領域の疾患等を総合的に診ることができる総合診療医の養成を推進していくことには、大きな意義がある。

一方で、本事業の成果目標として設定している総合診療医センターの設置状況が目標に比して大きく遅れており、地域ごとの設置数の差も大きいことから、センターの設置が進まない要因や地域で設置数に差が出ている要因、地域での総合診療医の数などを確認・分析し、阻害要因の除去やセンター設置大学へのインセンティブの確保等の対応を検討すべきである。

都道府県単位でセンターを整備するという現行のアウトカムについて、都道府県単位での整備が進んでいない現状も踏まえ、大学からの手上げを待つだけでなく、戦略的に地域ごとに採択校を決定することを検討すべきであるほか、総合診療医に対する地域ごとの需要に対応した目標設定とするなど、実態に合わせたアウトカムとなるよう検討すべきである。

さらに、ブロックにおけるセンターの設置数と、当該ブロック内の総合診療医の増加数との関係について検証を行い、総合診療医の増加数や総合診療医1人当たりの人口カバー率等をアウトカムとして設定することを検討すべきである。

本事業が、総合診療医を目指す医学生や研修医のキャリアパスをサポートするものであることを踏まえ、医学生等の総合診療への意識変化をアウトカムとして設定することを検討すべきである。

その際、総合診療医を目指すことに対するインセンティブの提供（奨学金の強化、待遇改善、キャリアモデルの周知など様々な方策）についても、当該事業を超えて幅広く検討すべきである。

加えて、各センター（採択大学）での用途について、費目ごとの支出額等に差異が生じているように見受けられることから、各ブロックや都道府県における支出額と総合診療医の必要数及び各センターでの総合診療医の輩出数との関連性を明確にしておく必要があり、総合診療医を増やすことが本事業（採択大学への補助・学び直し）の目的であるからこそ、その効果検証をより厳密にすべき、との意見があった。